

A man in a blue work jacket is working in a laboratory. He is focused on adjusting a piece of equipment, possibly a microscope or a similar scientific instrument. The background shows various laboratory equipment, including shelves with bottles and other instruments. The overall atmosphere is professional and scientific.

三木理研工業

やさしさ創造コーポレーション

これからの自然と共に生きる

三木理研とは...



避けては通れない環境問題に対して積極的に取り組み、業界、地域社会、地球環境に役に立てるように、そして「技術の三木理研」「すべてに品質優先」を合言葉に事業として健全な利益を生み、新しい考えを

試み、商品を研究、開発、提供などを行っている。

住まいと装い、生活に欠かせないこの二つの分野を中心に製品を作ってきた会社です。例えば、装いでは抗菌／防臭剤、住まいでは接着剤／キャッチャー剤がある。コロナ禍でも利益は1・5倍と地域経済に深くかかわっている。

企業のQ&A

Q1.会社の人数と社員の構成は？

A1.54人いて、その内29人が製造です。

Q2.今どのような商品に力を入れたり、開発をしていますか？

A2.環境維持の潜熱蓄熱材や、マイクロカプセルと「省エネ」を目標にたくさんの製品や薬品を生産、開発している。

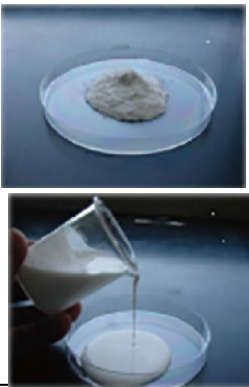
三木理研工業株式会社は昭和四十二年七月二十七日に設立されました。当時の社名は「ミキリケン化学工業株式会社」でした。しかし昭和四十八年三月に「三木理研株式会社」に変更した。設立当時の資本金は二百万円でしたが、現在は一千五百万円と上がっています。三木理研では、ホルマリンキャッチャー剤という薬品を製造しています。これの国内シェアはほぼ100パーセントです。

昭和42年7月	資本金200万円にて和歌山市島崎町6丁目30にてミキリケン化学工業株式会社を設立
昭和44年5月	資本金400万円に増資
昭和47年6月	資本金700万円に増資 事業の拡大を目的に新工場建設に着工
平成21年3月	和歌山県桃山町に新工場「桃山工場」建設
平成29年2月	桃山工場第二建屋新設

三木理研PRODUCTION

商品の一つ潜熱蓄熱材について

潜熱蓄熱材とは、個体から液体・液体から個体へと状態変化する際に必要な熱である「潜熱」を利用する。融点での融解熱、および凝固点での凝固熱が蓄積され、相変化する間に、温度を保ち続ける原理を利用するのが、潜熱蓄熱材です。これを三木理研さんは、ノルマルパラフィンというものを潜熱蓄熱材として使います。



ノルマルパラフィンは他の潜熱蓄熱材と違い、安価、繰り返し使用可能、熱安定性・高温耐性などがあげられます。季節を問わず、室内温度の変動を抑え、快適な室内空間を維持できます

会社の風景



目に
見え
ない
けれど
確かに
そこ
にある

省エネルギー事業だけでなく、環境に配慮したバイオ排水処理事業も展開している。おそらく、三木理研の名前やロゴを目にした人はほとんどいないと思います。製造した薬品などは、業者の方々だけにお使いいただいているからです。